

附属特別支援学校 校長だより

NO6 教職員向け
平成30年11月15日
発行：附属特別支援学校
校長 須田 正信

11月3日 平野五校園共同研究発表会開催

研究テーマ「一人ひとりの多様な可能性を広げる評価の在り方」
—主体性を育むための教育目標及び評価指標の作成と活用をめざして—



シンポジウム：平野五校園の代表から自校の実践について発表がありました。

三日の文化の日に、平野五校園の共同研究発表会がありました。テーマにあるように「主体性を育む」とした内容で各五校園がそれぞれ実践発表を行いました。附属特別支援学校からは「本校の教育と研究について」研究部長の岩崎先生が代表して報告しました。この五校園の共同研究は全国的にも注目されているもので、幼稚園から小・中高、特別支援学校が同一の地域での関係性の中で各校園段階での子どもの姿と、学びのつながりの実際から考え、主体性をキーワードに「主体性コモン・ルーブリック」を作成するものです。

幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校からの 「主体性を育む取り組み」についての報告



大阪教育大学 附属特別支援学校

「主体性」についての本校の研究のあゆみ1

平成28～30年度
研究主題「Art & Science ～科学的根拠に基づいた魅力ある教育実践」

児童生徒の 主体性

授業の見直し、改善 授業づくり

12年間の一貫性

平成25～27年度
研究主題「主体的に社会に関わる力を育む授業づくり」

大阪教育大学

本校の研究としては、平成二十五年から二十七年までの研修主題「主体的に社会に関わる力を育む授業づくり」として、十二年間の一環的な教育を見据えた授業づくり、児童生徒の主体性について研究してきました。また、平成二十八年から平成三十年までは「アートサイエンス」科学的根拠に基づいた魅力ある教育実践」です。



テーマ「発達段階を踏まえた授業実践」 3年次のまとめ研究として発達段階を確実に踏まえて行われているか、非言語表出による授業に集中しているか効果検証を行う。



テーマ「教育実習生の育成」 実習生と指導教諭双方の育ち育てるということを最終目的として研究を進めています。



テーマ「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた教科学習の検証 知的障害特別支援学校における授業実践を通して教科目標の到達度の高まりや日常生活場面での変化を検証。

●附属特別支援学校からは「5つの研究グループ」からポスター発表をしました。

2019・2・9研究大会に向けて「二次案内」を発送！ 各グループの研究発表に向けて

今年度の研究大会について、二次案内を各関係団体にメール配信しました。研究主題と研究チームについては左の図に示していますが、この研究成果をぜひ多くの人たちに広めていただけるように期待しています。当日は、文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官の中村大介先生をお迎えして、記念講演を予定しています。「学習指導要領等の改訂を踏まえた特別支援教育の推進」をテーマに今後の取り組みについての示唆があるものと思います。附属特別支援学校としては公開授業や分科会などから本校の教育実践の集大成として内外に発信してくれることを期待しています。

研究主題と研究チーム	研究主題 「Art & Science ～科学的根拠に基づいた魅力ある教育実践～」
A 授業実践の成果 グループ	「発達段階を踏まえた授業実践」チーム リーダー 松本(小) 指導助言者 三益 聖美 講師 (大阪教育大学 特別支援教育講座 発達障害)
	「知的障害特別支援学校における課題関連図を導入した自立活動指導の実践的研究」チーム リーダー 岩井(高) 指導助言者 大内田 暁 特任准教授 (大阪教育大学 特別支援教育講座 肢体不自由)
	「知的障害特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた教科学習の検証～事例研究～」チーム リーダー 渡部(小) 指導助言者 今枝史雄 特任講師 (大阪教育大学 特別支援教育講座 知的障害)
B インクルーシブ教育の推進 グループ	「インクルーシブ教育推進のための交流及び共同学習について」チーム リーダー 中島(中) 指導助言者 富永 光昭 教授 (大阪教育大学 特別支援教育講座 知的障害・病弱)
C 実習生の育成 グループ	「実習生の育成」チーム リーダー 岩崎(中) 指導助言者 平賀 健太郎 准教授 (大阪教育大学 特別支援教育講座 病弱)

「インクルーシブ教育推進のための交流及び共同学習について」



附属平野中学校の生徒と本校生徒との「車いすバスケット」を体験し共に学習

「知的障害特別支援学校の課題関連図を導入した自立活動指導の実践的研究」



自立活動の時間から自分のボディーイメージや様々な姿勢や身体状況を知る学習

知的障害特別支援学校においては、各教科でねらいとした資質・能力を育むために、生活に結び付いた学習を合わせた指導が工夫されてきました。しかし、指導効果が上がらないという指摘もあり、各教科等を学ぶ基盤が整っているかという疑問から新学習指導要領においても「自立活動」が改めて重要な視点となりました。本校での「自立活動」の研究は、課題関連図に基づき、選定された項目から具体的な指導内容、指導形態を模索するものから今後の実践に寄与できるものと思います。



■小学部での「主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた授業実践」の取り組みでは、「三匹の子ぶた」をテーマに子どもたちが電子黒板に表示された歌詞を歌いセリフと身体表現をしていました。

<新学習指導要領対応!!>
知的障害特別支援学校の
自立活動の指導

◆監修 下山 直人 (筑波大学教授・筑波大学附属久里浜特別支援学校長)
◆編者 全国特別支援学校知的障害教育校長会

知的障害特別支援学校の自立活動の指導で押さえておきたい、理解しておきたい、基本的なポイントがこれ一冊でわかる！

B5判/164頁
ISBN978-4-86371-479-3
定価：本体1,800円＋税

新学習指導要領を踏まえ、知っておきたい自立活動の基本事項を押さえて、実際に全国の知的障害特別支援学校で実践されている指導事例(12事例)を取り上げ、児童生徒の実態から指導すべき課題を明確にする過程、指導計画を作成する過程などを具体的に、かつ簡潔にまとめています。

また、今後、通常の学校においても自立活動への関心の高まりが予想されることから、特別支援学校が地域におけるセンターの機能を果たす観点で、理解しておくべき事例と、小学校、中学校、高等学校での先進的事例も掲載。

らないう指摘もあり、各教科等を学ぶ基盤が整っているかという疑問から新学習指導要領においても「自立活動」が改めて重要な視点となりました。本校での「自立活動」の研究は、課題関連図に基づき、選定された項目から具体的な指導内容、指導形態を模索するものから今後の実践に寄与できるものと思います。

■全国の知的障害特別支援学校の実践から筑波大学附属久里浜特別支援学校下山直人校長の監修で発行された「知的障害特別支援学校の自立活動の指導」が参考になると思います。「シアース教育新書」